

令和5年度第1回埼玉県秩父地域保健医療協議会 議事概要

1 日時及び開催形式

令和5年12月7日（木）午後7時から午後8時20分
Zoomによるオンライン開催

2 出席者

- ・委員（別紙名簿のとおり）：委員総数18名、出席15名・欠席3名
- ・事務局：保健医療政策課、秩父保健所 計7名
- ・傍聴者：2名

3 あいさつ

柳澤 秩父保健所長
井上 秩父郡市医師会長

4 議題

(1) 第8次計画の骨子案及び指標案について

保健医療政策課から、資料に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

(井上会長)

食育基本法が制定されたのは平成17年だったが、今回、県の保健医療計画に「食育の推進」が新たに組み込まれた理由はなぜか。

(保健医療政策課)

今までは「健康づくり対策」の節で食育について論じていたが、今回、食育推進計画を組み込むに当たって、しっかり論じていきたいため、節を分けて表記した。

(井上会長)

秩父市の新井委員にお伺いする。現在秩父市で策定している健康づくり計画では、食育の項目が抜け落ちていたが、経緯を教えてください。

(新井委員)

秩父市の健康づくり計画にも、一部食育が含まれていたが、別に考えていた部分もあって、少しボリュームを入れてと現在考えている状況である。

(井上会長)

食育は単に健康寿命を延ばすということだけではなく、地域文化の継承とか、高齢者と若い世代を結び付けるとか、非常に重要な点があると思っている。医師会でも今度健康講座を開くが、西委員にこのことについて簡単に説明をお願いしたい。

(西委員)

医師会では健康に対する市民の意識を高めるため健康講座を開いている。今回は2つのテーマで考えており、1つは食育で、どうしても塩分摂取量が多い。ちちぶ医療協議会で

も対策を進めているが、思ったほど減塩できていない。塩分が多いと高血圧や腎臓などの疾病の悪化の要因になることを知っていただきたい。もう一つはフレイル管理で、筋肉をしっかりつけるにはどうしたらいいか、適度の運動が必要など、筋肉に目を向けていただけるような講座を、来年2月25日に市民会館で開く予定なので、よろしくお願ひしたい。

(井上会長)

3頁の脳卒中医療及び心筋梗塞等の心血管疾患医療についてだが、県ではSSN(※埼玉県急性期脳卒中治療ネットワーク)とかSAN(※埼玉県大動脈緊急症治療ネットワーク)があるが、一般市民への認知度が低い。行政からも頑張つてアピールしていただきたい。このことについて西先生はどう思うか。

(西委員)

脳についてお話しさせていただく。日本脳神経外科学会では、一次救急病院に1時間以内に運ばれる割合を、全人口の99%以上が達成できることを目指している。秩父の人口は県全体の1%強程度で、秩父では1人もできていなくても、県全体では達成できていることになってしまう。人口比率だけではなく面積比率も考えてほしい。ストロークネットワークはすごくいい方法で、救急車で判断して早く必要な病院に行くなど、とにかく早く行くことが大事。秩父から外へ出ていくと、どうしても1時間以上かかってしまう。救急車を呼びたがらない人もいるが、脳卒中を疑うときは躊躇なく救急車を呼ぶという教育も必要である。

同じように心筋梗塞にしても時間との戦いなので、早く搬送できるよう、患者から手を上げていただく教育が必要である。

(井上会長)

西先生から市民への教育や啓もうが必要という話があった。3頁に救急医療の話があるが、島村先生は市民への啓もうについてどう思うか。

(島村委員)

救急については喫緊の問題で、秩父病院が水曜日の夜間救急輪番を外れるという話があり、皆で話し合っている。先日、県の保健医療部長が来た時も話をした。問題となるのは夜間と休日。当院では救急車は原則断らないので入院患者が増える。特に消化器系の処置が多く、内科の先生はへとへとで、医師、看護師は疲弊する一方である。秩父地域は、埼玉県の何年か後の有様を先に行っている形なので、全県で同一の枠組みで計画を組まれてもそぐわないことがある。医者や看護師の確保についても、奨学金を出して募っても秩父地域には医師は来てくれない。今後も秩父や北部地域に、医師がどれだけ来てくれるものかと思っている。

(井上会長)

6頁の医療従事者の確保について、看護学校の志望者の減少に何らかの手が打てないかと、日頃から思っている。秩父市立病院の関田看護部長、何か御意見はあるか。

(関田委員)

看護師は現状少ない状態で、また、新しい看護師が入ってきてくれない。新人看護師の教育によって、秩父市に入ってもらえるような手立てが喫緊に必要と思っている。

(井上会長)

基本的なスキルを身に着けた若い看護師がたくさん出てくればいい。秩父地域の中でも工夫ができないかと思っている。

また、現在、医薬品の欠品で困っている。県とか地域で何とかならないかと思っている。

(西委員)

医師の確保について、若い医師が入ってくる方策を考えている。秩父都市医師会の中では、井上会長も私も若者のグループに入る。医師の高齢化が進んでいて、5年、10年、20年後には、院長一人でやっている診療所で後継者がいないところは、どんどん縮小していくかもしれない。

秩父だけの話ではないかもしれないが、住民の高齢化と同時に、医師・看護師も高齢化していく。自然とドロップアウトしていくことも考えながら、上手に対応していく必要がある。

(井上会長)

年を取った医師や看護師も役に立って、いい仕事をしてもらえるようなことが、秩父地域でできればと考えている。

(保健医療政策課)

少し情報提供させていただく。救急医療のカバー率について、人口割で考えると秩父は現実をとらえられていない部分があるとの話があった。確かに救急のドクターカーなどは搬送に時間がかかる。また、心臓の関係で啓発が足りないという御指摘があったが、疾病対策課が県民や医療従事者への情報提供について検討を進めている。加えて、看護学校の志望者が減っていることは、他の圏域でも同じ話が出ている。医療人材課では、中学生に看護の体験を通じて魅力を伝えて、志望者の増加につなげていこうとしている。こういった地域の皆さんの声は貴重であり、大変勉強になった。

(2) 圏域別取組（第8次計画）の策定について

保健医療政策課から、資料に基づき説明がなされた。

また、秩父保健所から、秩父圏域の第8次の取組の項目について説明があった。

【主な質問・意見等】

(島村委員)

7次圏域別取組の4頁「産科医師・小児科医師の確保」についてだが、秩父市立病院では小児科の2名の常勤医が頑張ってくれている。埼玉医大の医局に小児科医の派遣のお願いに行った。しかし医師の働き方改革の影響もあってなかなか厳しい。この取組を策定しているのなら、県や保健所としてどういうことをしてくれているのか。県としてこの地域の小児医療を考えてくれるのなら、小児医療センターもあるし、奨学金をもらった小児科医師を数か月でも常勤医として派遣してくれるなどを盛り込んでもらえればいい。これでは漠然としすぎていて、保健所は何をしてくれるのかとってしまう。次期もこの取組みが残るのなら、具体的にこうするという文言を盛り込んでもらえればと思う。

(柳澤委員)

実施主体に保健所が書かれているが、保健所にはそういった権限や機能はなく、県の取組と考えるいただければと思う。医療の整備については保健所ごとではなく県全体で考えている。埼玉県は人口当たりの医師数が全国一少ないので、県全体で対策を考えている。

(島村委員)

保健所長から県へ口添えしてもらえればと思う。小児科医が1人いるかないかで地域の小

児医療は全然違ってくる。

(井上会長)

先日保健所でアンケートを取った際に、秩父圏域の小児科医の不足については、ほとんどすべての委員が書いていて、我々にとって重大な問題である。小児科の開業医は1軒しかなく、秩父地域の全体を保健所として見渡して、そういったことを県へ上げてほしい。

市町の委員からも意見を伺いたい。

(秩父市・新井委員)

秩父地域の医療体制の課題は救急医療の問題があって検討を重ねている。定住自立圏構想に基づく「ちちぶ医療協議会」で様々な事業を行っているが、足りない部分や問題解決に至らないこともある。県にお力添えをいただいてスムーズに行くようお願いしたい。

(横瀬町・守屋委員)

秩父の課題は救急医療のことと、産科・小児科医の不足で、医師の確保が重要だと思う。

また、4頁2番目の四角にある「子育て包括支援センター」は、市町では既に設置されていると思うので、そういう書き方にしていきたい。来年度以降包括支援センターの体制が徐々に変わってくるので、そのことも盛り込んでもいいのではと思う。

(皆野町・太幡委員)

秩父圏域の課題は多岐にわたっていると思う。救急医療が喫緊の課題であることはもちろんのことだが、町の9月定例議会で一般質問があった、小児科医の減少も課題である。皆野町では3月に小児科医院が閉院となった。秩父では小児科以外の先生に小児の初期診療に対応いただいているが、安心して子育てができる地域づくりのためには小児科医の定着を図る取組みが必要と思う。

(井上会長)

圏域別の策定指針では3項目が上げられていて、「医療従事者の確保」が外れているが、秩父ではこれが一番大切と思っている。どうすればいいか。

(保健医療政策課)

「医療従事者の確保」は全県での対応を想定しているため、圏域別の指針からは外している。

今日、秩父地域の小児科・産婦人科の問題は非常に深刻だということを改めて認識した。

県計画の本文には、秩父地域における産科医療を確保するための医師派遣を取り上げ、取組を記載している。医療人材課とも情報共有して取り組んでいきたい。圏域別の指針からは外しているが、他の圏域でも取組に加えたいという話もあり、地域の課題に合わせて柔軟に設定をいただきたいと考えている。

(閉会)